

# 「施策の柱」、「目標指標」等についての審議会委員のご意見

(平成29年度第1回奈良県スポーツ推進審議会定例会 委員事前ヒアリング)

所属	役職	氏名	施策の柱や目標指標等に対する主な意見 (○：施策の柱 ※：目標指標)
立命館大学	教授	佐久間 春夫	○スポーツを通じた「努力する喜び」の共有 ○スポーツ推進に寄与する団体、機関等への奨励制度の創設 ○スポーツフェロー（大学OBGによる支援団体）等、奈良県のスポーツを支える団体の設立  ※総合型のクラブ数だけでなく、活動の質
大阪ガス株式会社 アスリートネットワーク	近畿圏部地域活力創造チームマネージャー 副理事長	朝原 宣治	○手軽にスポーツを楽しめる機会の提供 ○身近に楽しみながらスポーツができる環境づくり ○子どもからトップアスリートまで、それぞれのニーズに応えられる指導者の育成・確保 ○子どもの頃からの運動習慣の確立
奈良県総合 リハビリテーションセンター	センター長	宮内 義純	○自転車道の整備→地域活性化 ○傷病者や高齢者向けのリハビリを兼ねた身体に負担の少ないスポーツの推進
県立奈良 医科大学	整形外科 部長	田中 康仁	○高齢者スポーツ、健康スポーツの推進 ○地域の強みを活かし、地域に根ざしたスポーツ力の向上 ○スポーツ医学による競技力の向上 （スポーツ傷害サポートネットワークの構築） ○女性スポーツドクター、女性指導者等の養成
市長	天理市長	並河 健	○子どものスポーツは大切  ※障がい者のスポーツへの参加
村長	御杖村長	伊藤 収宣	○子どもにスポーツの楽しさを伝えることによる推進 ○スポーツによる地域振興 （村を知ってもらう機会の創出、地域住民の交流機会の創出）
トップアスリート	オリンピック	千葉 すず	○スポーツに関する情報発信力の強化 ○季節に応じたスポーツイベント等の展開 ○スポーツを通じた、障がいのある人となない人の交流機会の創出 ○スポーツを通じた人間力の向上
神戸大学 大学院	教授	山口 泰雄	○総合型地域スポーツクラブの法人化、専任職員の配置 ○ファミリースポーツの振興 ○楽しい運動遊び、スポーツとの出逢い、子どものスポーツ指導者の育成 ○国体2巡目開催に向け、施設整備に係る中期計画の策定 ○イベント関与者（みる・支える人）の増加 ○奈良らしさとスポーツの組み合わせ（奈良の観光×スポーツ等） ○各団体をマッチングするような、奈良スポーツフォーラムのような機会を作れば、推進計画の推進に繋がる  ※法人格を有する総合型地域スポーツクラブの割合 ※障がい者スポーツ指導者数（大学等への呼びかけ） ※全国1位になった数（H28年度を調査し、5年後の目標値を1.5倍に設定） ※施設利用者のみではなく利用者満足度 ※観る・支えるスポーツの観点から、奈良マラソンの沿道応援者数やボランティア数 ※スポーツ未実施率を10%下げる
横浜 国立大学	名誉教授	蝶間林 利男	○子どものスポーツが重要。指導者育成・再教育が急務 ○大人が運動をしていれば、子どもは運動したがらる ○施設一覧をハンドブック形式に（公設・民間） ○公園でのラジオ体操、ストレッチ等の活用
特定非営利 活動法人 ポルベニルカシハラ スポーツクラブ	理事長	福西 達男	○スポーツイベント等情報の発信 ○空き店舗等を活用した、身近なスポーツ空間の創出 ○女性がスポーツに取り組みやすい環境づくり  ※子どもの体力数値 ※総合型のクラブ数の増加に加え、自立しているクラブ数
カーブス ジャパン 株式会社	取締役社長	増本 岳	○ライフスタイルとスポーツとの関係は大事 ○高齢者にスポーツを継続してもらうには、体調改善の実感が必要 ○子どものスポーツは大切。「孫と一緒に運動」というコンセプトの事業をしている ○高齢者の女性の「口コミ」の力は大きい。自治体の施策にも活かしては